

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4071601506
法人名	医療法人 聖峰会
事業所名	グループホーム ひまわり2号館 (ユニット名 耳納の郷)
所在地	福岡県久留米市善導寺町飯田1393-9
自己評価作成日	令和元年7月12日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/40/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人福岡県介護福祉士会
所在地	福岡市博多区博多駅東1-1-16第2高田ビル2階
訪問調査日	令和元年9月12日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ひまわり2号館で力を入れている所は、職員が働きやすい環境作りと入居者様一人ひとりが出来る事をして頂くという点です。働きやすい環境作りは、パースデー有休取得やミーティングでの業務変更等を決める際は強制ではなく、一人ひとりの意見を聞き、多数決で決めています。また、委員会を設置し、委員会ミーティングを2ヶ月に1回開催し、全員が意識づけできるような仕組みを作っています。入居者様に對しては料理が得意な方には野菜の皮むきや調理を職員と一緒に頂いたり、編み物やお茶が得意な方には道具をご家族様から持ってきて頂き、他入居者様や職員に教えて頂く機会を作っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

耳納連山を背にした田園地帯にあり四季を感じることができる2ユニットの事業所である。食堂兼リビングは天井に大きな梁が見え広々とした空間である。リビングや廊下等には腰板が使われ、また居室入り口の底は個人の家に入る趣があり、木のあたたかみとやすらぎがある。二人の管理者とともに職員皆で話し合って見直した理念を軸に職員間で互いに支え合って前向きにケアをしていこうとする姿勢がある。ミーティングにおいても意見を言いやすい雰囲気があり、業務改善を行って働きやすい職場にしようとしている。もちろんケアにおいても家庭的で穏やかな雰囲気のなか、利用者が安心や役割をもって生活ができるよう一人ひとりに目を向けケアに取り組んでいる。母体の病院や併設事業所とともに地域のグループホームとして期待される事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27) ○	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21) ○
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,38) ○	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22) ○
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40) ○	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39) ○	68	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) ○
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51) ○	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33) ○	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○
64	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30) ○		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	全員で協議を行い、理念を作る所までは出来ていたが作り上げる事ができていない。	2～3ヶ月に1回、1年かけて理念について職員と話し合いを重ね見直し、現理念を作り上げている。毎朝唱和はさることながら皆で作っているため職員間に共有ができています。法人理念には地域を意識した文言になっている。当事業所には地域密着型としての内容を盛り込むまでに至っていない。	地域密着型サービスとしての意義や役割を意識していることを、理念の中に表記していくことについて検討することを期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に年2回参加し、清掃活動に年5回参加している。日常的にも散歩時の挨拶や、町内行事、総会への参加、併設する特養、通所と合同で餅つき会、民謡ショーを開催し、地域住民を招くことを通じて地域との交流が図れている。	地域の行事に積極的に参加して交流を深めている。夏祭りでは利用者が万歳三唱の音頭をとり、住民の一人として役割をもって生活している。また、地域の方の日舞や歌のおじさんの訪問があり、一緒に楽しんだりして地域の人との関わりがある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域運営推進会議を活用し、認知症の勉強会やグループホームの特性を理解して頂ける様に行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホームの状況、入居者の近状報告、事故報告、ヒヤリハットについて会議の時、その都度、報告している。また、併設する特養と一緒に職員による講座を開催し、学んだことを介護計画に活かしている。	2ヶ月に1回、介護保険課、地域包括支援センター、自治会長、民生委員の参加のもと開催している。自治会長が毎年変わることから開催時間や曜日、見学希望等要望に応じており、よりグループホームを知ってもらう機会となっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	介護保険課、地域包括支援センターの職員に毎回、地域運営推進会議の案内を行い、結果報告し、担当者と情報交換を行っている。	10月からの消費税に伴う書類や家族への説明の在り方等、市担当者より助言を得たり確認を行っている。徘徊訓練へ参加の誘いがあり、次回参加を予定している。月に1回地域包括支援センターに行ったり電話で状況報告しており常に協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービスにおける禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束マニュアルを基に身体拘束は行っていない。定期的にマニュアルの確認を全職員で行う機会も作っている。	定期的な身体拘束適正委員会や年2回の勉強会、外部の研修へ参加することで防止に努めている。垂脱臼防止の三角巾が拘束ではないかとのことで、委員会や家族とも話し合い常に様子を観察している。マニュアルの確認とともに利用者一人ひとりの対応を検討している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的に勉強会を行い、認知症に対する理解や日々の自分の業務姿勢を見直す機会を作っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者が研修に参加し職員ミーティングで伝達講習会を行い、職員で学ぶ機会を設けている。現在、成年後見制度を活用している方もいる。	管理者による伝達研修で職員は制度を概ね理解している。制度の利用が必要と思われる利用者や家族等に対しては、社会福祉協議会に相談してつなげるよう支援している。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ホームの運営規定により契約時に十分な説明を行い、理解と納得を頂いている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者、家族等が意見を言いやすい雰囲気作りに努め、意見箱の設置も行い、ご意見を頂いた時はスタッフ一人ひとりに反映するように申し送り等で伝え、カンファレンスで解決策や対応策を話し合っている。	意見箱を設置しているが、数年に1~2枚入っている程度である。どの職員にでも直接話してもらい、職員間で意見を共有し、運営に反映させている。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月職員ミーティングで意見や提案する機会を作り、意見内容について解決策を検討するようにしている。人事考課を年2回行っており、個別面談を実施しその意見を可能な限り反映するようにしている。	月に1回のミーティングでは意見が言いやすい雰囲気があり、活発な発言がある。業務改善や職員の意識変革と協力、利用者との関わりに関する工夫等、意見を運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人では人事考課を年2回行っており、本人の意見、希望を聞き、個人のモチベーションの向上に努めている。また、働きやすい職場環境を目的として温かい雰囲気づくりにも努めている。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮し生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	スタッフの採用にあたっては性別、年齢を問わず、職業にやりがいを感じている方を採用している。又、キャリア段位制度を取り入れ自己実現に向けてスキルアップできる環境を整えている。	採用にあたって年齢や性別による選別はしていない。ミーティングは時間外でも業務として参加している。資格取得に向けての実務者研修参加費について、一部を援助している。また、職員の得意とすることを業務で発揮できるので、やりがいをもって勤務している。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	法人内及び外部での身体拘束等の研修会に参加し、その内容についてミーティングで考える機会を設けている。	月1回法人の全体研修の中で人権に関する研修をしている。参加できなかった職員は研修時のDVDで学んでいる。また、外部研修で人権について受講の機会があり、その参加者による伝達研修をして人権教育、啓発に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	平成29年度より法人でキャリア段位制度を取り入れ、やる気がある職員はチャレンジしスキルアップしていく仕組みがある。また、毎月ユニットミーティングを実施し一人ひとりのケアについて話し合いを行っている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	福岡県社会福祉協議会又、福岡県高齢者グループホーム協議会に入会しており、他のグループホームと相互意見情報交換している。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の気持ちを傾聴し、本人の要望を最大限にいかせるよう介護計画を立案する。又、問題に応じた最適な介護、アドバイスを行うことによって信頼関係が早期に築けるよう努めている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族についても本人同様の対応をしている。家族が安心して本人を預けて頂けるように、家族の不要望や不安等をお尋ねし、家族とより良いコミュニケーションが図れるように心がけている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	管理者、介護支援専門員、担当スタッフが、情報を詳しく収集、会話の中からも情報を得る。他部署との連携を取り、迅速な対応が出来るように医療面では病院と連携を図っている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者の出来る事はして頂き、一緒にすれば出来る所は一緒にする等、その方の残存機能を生かしながら生活できるように支援を心がけている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日常の様子を月に1回、お便りに記入してお伝えしている。また、面会時には詳しく話したり、受診した際は電話にて報告をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の制限がない限り友人などの面会や電話を出来る様にしている。	事業所や自分の必要な物の購入でスーパーマーケットや道の駅へ出かけている。月1回、あるいは土日や毎日など様々あるが、家族が訪問してきて部屋で過ごしたり、外出して過ごす等協力を得ている。また、隣の施設との行事で馴染の人と話す機会があり、関係が途切れないように支援している。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の関係、性格等を考慮しスタッフが間に入りいい関係づくりが出来る様に努めている。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	病院に入院された後も医療機関と連携を取りながら状態把握に努め、本人やご家族とコミュニケーションを図りながら相談や今後の方向性について支援を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段の会話の中で思いや希望を聞き出し、できる限り実行できるように皆で協議し検討している。	介護計画はケアマネジャーが作成し、アセスメントシートを担当者が記入し、他の職員の意見や、本人、家族の意向を聞いている。利用者の数名は思いを伝えられる。言葉数が少ない方は、テレビや雑誌の嗜好、利用者同士の会話の中から好きなことを見出し提供している。意向の確認が難しい方は家族の意見を聞き、本人本位の計画を作成している。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	その方にあった馴染みの暮らし方をまず把握し、面会時に再度詳しく聞くようにしている。本人からも日常の会話から引き出せるよう努めている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの日課計画表を作成している。また、月一回カンファレンスを行い、情報の共有を行っている。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の出来ることを伸ばす計画を取り入れている。又、本人、家族、スタッフの意見を反映した介護計画を作成している。	ミーティング時に、モニタリングを行い3ヶ月ごとに見直しを行っている。退院時や体調変化時などは随時見直しを行っている。健康面に関しては看護師の意見を聞き、担当医からは日常生活における注意事項などを確認し、身体機能の低下防止については訪問リハビリスタッフより聞き取っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を介護記録に記入している。又、月一回のカンファレンスを通して介護計画の見直しに生かしている。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	髪のカット依頼、訪問診療など入居者のQOLの維持、向上に努めている。ホームではスタッフが時期によって野菜を作り提供している。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域住民、自治会、老人会、民生委員、消防署などとの協力体制は出来ている。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人の主治医へ受診付き添い援助しており、定期受診ではスタッフが日頃の状態を主治医へ報告し、適切な医療を受けれるように支援している。病状によっては家族にも教協説明し同伴をお願いしている。	入居前のかかりつけ医、母体法人の病院、訪問診療などそれぞれの希望に即した対応をしている。病院受診は、事業所職員が受診に同行している。定期受診結果は、家族が訪問時に報告している。訪問がない方には、手紙や電話で報告している。緊急受診等は、受診後に電話で家族に報告している。歯科、眼科、皮膚科等への受診時の同行支援も行っている。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職場内の看護師に症状を伝え、健康管理している。必要時は、電話連絡にて指示を受け、受診検討している。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	早期に退院出来るよう急変時の早期発見、受診対応は確実に出来ている。入院時は看介護添書を入院先に提出している。又、1Wに2、3回は見舞いに行き、その際、病棟看護師、担当SWに状況を聞き、情報交換を密にしている。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用開始時に重度化や看取りについては指針を通して説明を行い、同意書を交わしている。状態が変化した時には再度、説明を行いご意向を確認している。	現在は看取りを行っていない。重度化した場合はかかりつけ医から説明を行い医療機関へ入院していただいている。事業所の方針を伝え納得していただいたうえで利用開始としている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアル作成しており、それに基づいて急変時は対応している。又、年2回の消防訓練にて、一般救急法指導の講習を救急救命士より受講し、対応の勉強をしている。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の消防訓練時、運営推進会議にて地域の方々に参加を呼びかけている。近隣施設と応援協定を作り協力体制は出来ている。地震、水害訓練は消防訓練に準じている。又、災害時の緊急避難場所として地域の方々へ周知している。	消防署立ち合いで年2回の避難訓練を実施している。職員は、避難ルートや避難場所の理解ができています。今回の避難訓練では、地震や水害の事についての対策を話してもらい職員の意識付けを図った。また、事業所を地域の避難場所として開放している。備蓄や備品の準備がある。スプリングラーの設置がある。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	同じ目線に合わせて会話をする様、心掛けている。又、人格を尊重した声かけを行う様に心掛けている。	個人のファイルはキャビネットの中に保管している。家族訪問時には他の方に配慮し個人の居室でお話をするようにしている。排泄の失敗等があった場合は、耳元で声掛けを行い居室へ誘導し更衣を促している。管理者は、ミーティング等を通じて年長者としての対応や羞恥心に配慮した支援の在り方を示している。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	物事一つひとつ行う際にまずは声かけを行い、入居者の思いを聞き、納得してできるように心がけている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	できる限り、一人ひとりのペースに合わせて出来る事を提供するように心がけている。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	使い慣れた化粧品や衣類など、おしゃれが出来る様に支援している。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	残存機能を生かしながら、野菜の皮むきや片づけを一緒に行っている。	4人の給食委員会メンバーが他の職員の意見を聞きながら献立を作っている。家族から頂いたり、職員が持ってきた季節の野菜を食卓にだしている。職員と一緒におやつ作り、野菜の皮むき、テーブル拭き、茶碗洗い等を行っている。利用者は、職員と一緒にテーブルを囲み食事を楽しんでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりに合った食事内容、食事量、食欲の状態、摂取方法を把握し、その時の状況に応じ対応している。夕食は油っこいメニューを控えるなどの配慮を行っている。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの声かけをして、一部介助や全介助を行い、清潔を心掛けている。義歯の方へは、毎食後の口腔ケアとポリドント洗浄を行っている。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自力で排泄して頂けるようにその方の排泄パターンを把握し、その方に応じた支援をしている。トイレ介助の際は、その方に応じて車椅子の角度や手すりを活用しながら可能な限り自立に向けた支援を行っている。	排泄量や回数に合わせて適切なパット等を選択している。退院後の方は、体調や身体状況に合わせてトイレ誘導を行っている。排泄チェック表があり排泄パターンを確認しながらトイレへの誘導をして、自立に向けた支援を行っている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の体操、散歩、歩行運動等の実施、献立はバランスを考えながら野菜を多めに取り入れている。又、便秘症の方へは、下剤でのコントロールやこまめな水分補給も心がけている。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	出来る限り、一人ひとりの希望に沿って入浴が出来る様にしている。毎日入浴したい方はされている。	週2回午前中に入浴しており、本人の希望で午後からや毎日入浴する方もいる。シャンプー等は事業所で準備しており、こだわりがある方は個人購入してもらっている。入浴の順番は、その日の体調等に併せて対応している。入浴を拒まれる場合は、対応する職員や時間を変えたり、翌日にするなど工夫している。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	使い慣れた寝具を使用し、室温調整を行い安心できる空間で休んで頂ける様に支援している。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの内服薬を理解できるように、カルテに薬の説明書を入れ、常に新しい情報が把握できるよう受診日に更新している。症状の変化を日々カルテに記載するようにしている。看護記録に症状の変化等記録している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活歴や楽しみ事を把握し、残存機能を考慮しながら出来る事を楽しくして頂く様に支援している。		
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は散歩、ドライブ、買い物等に行っている。遠方へは、季節、気候、天候、入居者の体調を考慮しながら、ホーム車で出掛けるようにしている。	玄関前に4~5人掛けのベンチがありオープンカフェを開催している。日々の散歩コースにある神社でお参りをしたり、近所の方とお話をしたりしている。月1~2回買い物等の外出支援を行っている。季節毎の花見にも出かけている。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現金は預かり金としてホーム内で管理しているが、買い物等をされる時は同行し希望されているものを購入している。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や知人に電話したり、取り次いだり、手紙を書かれた際は、郵送するなどの支援をしている。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を植え、プランターにも草花を植え心地よい空間づくりに気をつけている。季節感を味わうことが出来る創作物を掲示している。	利用者が過ごす食堂兼リビングは天井が高く木の梁や照明が心安らぐ空間となっている。また、食堂の一角にはソファがあり気の合う仲間と過ごすことができる。中庭のデッキを利用し洗濯物を干したレクリエーションを楽しんだりしている。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	中庭のデッキや玄関にベンチを設置し天候がいい日は、日光浴をしながら気の合った利用者とは話を楽しんだり、独りで過ごせる居場所を作っている。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者が今まで馴染んで使用されてこられた持ち物を持参してもらい、心地よく落ち着いた生活ができるようにしている。	各居室のドアの上に庇が有り、家に入る趣がある。テレビ、ベッド、クローゼット等の備え付けの備品がある。仏壇、仏像、家族の写真、思い出の家具を設置している部屋やアロマの香りで落ち着いた部屋もあり、それぞれの利用者に応じた配慮がなされている。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	室内はバリアフリーになっており、廊下、居室、トイレ内、浴室等に手すりを設置したり場所が分かるように表示をしている。言葉かけに工夫したり、自立した生活ができるように心がけている。		